

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生公務員専門学校 北九州校

目次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 6 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、麻生公務員専門学校北九州校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)	出欠
高等学校	田中 球磨	福岡県立八幡南高等学校 校長	欠席
保護者等	大石 正代	公務員総合科1年生の保護者	欠席
地域住民	山下 和代	地域住民代表	出席
国又は地方 公共団体	島内 浩樹	防衛省・自衛隊 福岡地方協力本部 北九州地区隊 地区隊長	出席
業界関係者	徳田 貴史	株式会社行政マネジメント研究所 代表取締役	出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時:2024年7月18日(木)17:30 ~ 18:00

場 所:麻生塾北九州キャンパス 西小倉校舎 4階 402教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2023年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果、課題及び改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1)自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2)今後の解決方向が適切かどうか
- (3)学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4)その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

評価基準

- S:適切
- A:ほぼ適切
- B:やや不適切
- C:不適切

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

- (1)公務員総合科(2年課程)を中心に、人間教育に関するカリキュラムを充実させる。
- (2)学生・保護者等がともに満足できる質の高い就職先を確保する。

【取組み状況及び総括(成果と課題)】

- (1)公務員として活躍するうえで必要な知識・スキルを身に付け、社会問題に関心を持つことを目標として、学生の希望する職種に応じた班ごとで職種研究ゼミ活動を促進した。同活動では、公務員に求められる資質について考える機会を設け、研究成果を発表することで、自主性を高め職業理解を深めることができた。また年度末には、ゼミ活動の集大成として成果発表会を実施し、校長および教員からの講評を受ける機会を設けた。なお官公庁への取材依頼にあたり、基本的なマナー・作法が身につけていないという課題がある。過去の事例を踏まえて事前に指導を行っても、官公庁から指摘される班もあるため、引き続きマナー・作法の指導を行う必要がある。併せて、学生の自主性も発揮しながら教員が学生の活動をサポートできるように、ゼミ活動を推進する必要がある。
- (2)前年度に引き続き、学生の学習効果および教員のスキル向上を目的として、授業内容のデジタルコンテンツ化や公務員試験の出題傾向を踏まえた教材作成、模擬試験・解説の作成等を行った。教育業界においてもデジタルコンテンツの活用など授業の進め方は大きく変化している。さらなる学習効果の向上を図るため、学生の満足度や学習定着度を踏まえ効果的な授業のあり方を検証していく必要がある。教員間での振り返り会議を通して公務員試験の結果を分析し、反省点を洗い出し、次年度に向けた改善活動へ繋げている。また保護者会および三者面談を実施し、担任教員と学生、保護者等との間の情報共有を行った。近年では地元志向の高まりや公務員希望者数の減少など公務員試験を取り巻く環境が毎年変わっているため、より学生・保護者等・自治体のニーズを踏まえた受験先指導を行うためにも、学校全体として最新情報の収集と蓄積、教職員間での共有を進めていく必要がある。

【委員からのご意見】

特になし。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果: 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

「法人の理念」、「学校の教育理念」、「各学科の教育目的および育成人材像」は明文化され、職員には年度開始前の定例会議にて確認を行い、学生に対しては年度開始時のガイダンスの中で、学生便覧を用いて説明している。また、ホームページ・パンフレット等により校外へ発信している。

昨年まで課題となっていたもののうち、非常勤講師への周知、共有は書面による指導依頼などを通して行い、理念の浸透を進めた。学生への周知は、各学科の Microsoft Teams 上から簡単にアクセスできるリンク集を作成し、いつでも簡単にアクセスできる環境を整えた。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S	S

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果: 適正

- 2-1:学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか
- 2-2:事業計画を作成し、執行しているか。
- 2-3:運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。
- 2-4:人事・給与に関する制度を確立しているか。
- 2-5:情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

2-1

2023年3月、学校の理念に沿った運営方針を策定し、2023年4月1日、全職員出席のもと、運営方針を確認・共有する会議を開催した。その後は、定例会議の中で実施状況についての確認・共有を行っている。

2-2

策定された学校運営方針に則り、事業計画を作成し、年度当初のキックオフミーティングにおいて、全職員で確認・共有を実施した。各職員は、策定された事業計画に基づき、それぞれの行うべき業務の執行に当たっている。

2-3

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化されており、有効に機能している。理事長・副理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を毎月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が合議・情報共有を行う部門長会議など各階層別に必要な会議体が設計され、毎月開催されている。学内においては、年度当初にキックオフミーティングを実施し、組織図や各種委員の役割分担表などを用いて各職員が職務分掌を理解している。また、週1回定例会議を実施し、目標達成に向けての検証や運営について意思統一を図り、記録している。また事務組織も年度当初に業務分掌を行い、姉妹校の事務組織と連携しながら円滑に機能している。さらに事務職員との面談で資質・能力の向上について話し合い、各職員に応じた研修計画を策定し実施している。

2-4

就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書は法令を遵守し整備されている。また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程の更新を実施している。諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。採用活動においては年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新している。選考過程ではシステムに経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。

2-5

学生との情報共有ツールとして Microsoft Teams を用いて、日々の学生との連絡や授業内容の提示、公務員試験情報やボランティア活動に関する情報発信、必要に応じて授業も配信している。また、麻生塾独自の情報管理システムである「麻生塾システム」を用いて、広報、入試、学籍、教務、就職など学校運営上必要な情報を一元管理している。業務に関しては、Microsoft365 で情報を共有している。これらのシステムを適正に運用し、業務の軽減と効

率化・情報の電子共有化・教育活動の改善を図っている。さらに、本年度より本校独自の授業システム(Teachare (ティーチャー)、「Teachare」は、教える(Teach)と共有する(Share)を組み合わせた造語)を導入し、活用を開始している。

【課題及びその改善方策】

2-5

授業システム(Teachare)の活用が一部の授業に限定されており、十分に活用できてはいない。次年度は法人・学校全体として活用できることを目標に、スキル・ノウハウの蓄積と共有を進めてシステムの積極的な活用を図る。

その他の項目については特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S	S
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	S	S
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S	S
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	S	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S	S
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S	S
2-5-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	A	A

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果: 適正

3-1:教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

3-2:教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

3-3:教育の評価を適切に行っているか。

3-4:成績評価と単位認定を適切に行っているか。

3-5:教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

3-1

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーは、定例会議において学校構成員で確認・共有している。学生には年度開始時に「学生便覧」を用いて説明し、また学外にはホームページやパンフレット等で発信している。カリキュラム・ポリシーは、教育課程編成委員会等から複数の学校関係者の意見を取り入れ、検証している。

3-2

教育課程・教育内容は、教育課程編成委員会等から複数の学校関係者の意見を取り入れ、「全体の奉仕者」としての資質と実務能力を持つ有能な人材を育成するための教育課程を編成している。また、シラバスの内容はホームページで公開され、授業はシラバスに基づき実施されている。公務員総合科(2年課程)では、北九州市役所でのインターンシップや職種研究ゼミ活動など実践的な職業教育を行っている。

3-3

授業評価は、学生への授業アンケート・担任アンケートにより年2回行われており、担当教員との面談を通して評価結果を担当教員にフィードバックしている。また授業内容や授業方法の改善を図るために、科目担当教員間で勉強会を行い、情報の共有を行っている。

3-4

成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、学生に対し、入学直後のオリエンテーション等を通じて、「学生便覧」に明記されていること、また、その内容について口頭で説明している。成績評価・単位認定は、規程に基づいて客観的に判定している。成績評価・単位認定方法は、シラバスにも明記している。進級・卒業判定については、単位取得状況と出席率及び生活状況を評価し、規程に基づいて客観的に決定している。

3-5

専修学校設置基準その他法令を遵守しており、教員要件および定員に対する法令上必要な人員を適切に配置している。教科別担当教員も専門性と経歴を備えており、体制を整えている。さらに教員の能力開発、資質向上のために、適宜学内外で実施される各種研修へ参加している。

【課題及びその改善方策】

3-2

非常勤講師が担当する授業の進捗管理について、毎月書面で確認を行っているが、口頭で行われた打ち合わせの記録等が残されていない。非常勤講師との進捗確認の打合せに関する記録を作成する。そのうえで、非常勤講師の担当する授業の実施状況を把握し、必要があれば適宜修正を求める。

3-3

特に課題はないが、日常的な点検を充実させるために、ミニアンケートの実施などで学生の声を吸い上げる方法を検討し実行する。

その他の項目については特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S	S
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	S	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S	S
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	A	A
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S	S

3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S	S
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	S	S
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S	S
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	S	S
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S	S
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S	S
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S	S
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	S	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S	S
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	S	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	S	S
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	S	S

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果：適正

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

就職率の向上、退学率低減のため年度開始時に設定した目標を全教員で共有し、定例会議等で各クラスの状況を確認した結果、退学率は昨年度に比べて低減している。また退学懸念等のある学生は、担任教員による対応にとどめず、他の教員や管理職を交えた面談の機会を設け、退学率の低減を図っている。公務員合格率は年度初めに目標を定め、目標達成のために授業内容の改善・補講の実施等に取り組んでいる。年度末には、公務員試験の結果をもとに年度末に振り返り会議を行い、教員全体で次年度以降の改善に努めている。また人物試験対策として、今年度から面接練習を実施した内容を教員間で共有し、学生指導にフィードバックする仕組みを導入している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、引き続き面接指導の手法の共有と二次試験指導力をさらに高めるため、人物試験勉強会を開いて効果的な取り組みを行う教員の手法を学ぶ機会を設け、人物試験対策に関するスキル・ノウハウの共有を図る。

【委員の方からのご意見】

・自治体でも採用活動に苦戦しており、試験制度を変えながら多くの若者に試験を受けてもらえるよう工夫している。これらに対応するために学校のカリキュラム、指導内容を変えていくことが重要である。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-2	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取り組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S	S
4-1-3	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	評価除外	評価除外
4-1-4	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取り組みを行っているか。	S	S

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果：適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

学生への修学・進路支援については、二者面談や三者面談、希望者を対象としたスクールカウンセラーとの面談など相談できる機会・体制を整えている。また定期的に作成・発送する「学校通信」では、保護者等に対して学校の様子や公務員試験の情報等を発信している。さらに、公務員専攻科入学予定者を対象とした入学前授業、習熟度別の補講など学力に不安のある学生を様々な形で支援している。奨学金制度も充実しており、学生を経済面から支援する体制も十分である。加えて、健康診断の実施、学生寮の設置、ボランティア活動の案内・推奨など学生の健康管理、生活環境への支援も充実している。卒業生に対しても、再受験する際の面接指導を行っている。また、校友会や法人独自の卒業生キャリア支援を案内することで、卒業生の再就職等を支援している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

・高校と違って堅いイメージしかなかったが、細かいサポートと本人の自主性のバランスが良く非常に感謝している。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S	S
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S	S
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S	S
5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-8	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	評価除外	評価除外

5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S	S
5-1-10	学生に対する修学支援体制を整備しているか。	S	S
5-1-11	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。	S	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者(給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者)をいう。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果: 適正

6-1:教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

6-2:教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

6-1

専修学校設置基準に則り、教育上必要な施設・設備として実習室や演習室を整備しており、定期的に点検・管理を行っている。また、公務員採用試験に専念できる環境を整えるため、教室のほかにもパソコンルーム・面接指導室・図書コーナー・トレーニングルームなどを設置している。学生の施設利用にあたっては、トレーニングルームの受付管理簿などを利用して、適切な管理を行っている。

6-2

専門機関の指導を受け日常的に定期点検や自主点検を行うことにより安全管理体制を整備し、適切に運営している。学校の設備・備品を整備し、災害や事故に対する予防措置を十分行っており、学生が安全で快適な学校生活を送れるよう取り組んでいる。また避難訓練は実施できていないが、北九州市消防局に相談したうえで、防災マニュアルを作成して学生へ伝達するとともに、教室内に避難経路等を掲示するなどの代替措置をとっている。インターンシップについては、北九州市と協定を締結して学生の受け入れ先を整備している。

【課題及びその改善方策】

6-2

新型コロナウイルス感染流行に伴い中止していた避難訓練を再開できていない。改善方策として、避難訓練を実施する。避難訓練の実施が困難であれば昨年度同様防災マニュアルの周知等の代替措置をとる。

その他の項目については特になし。

【委員の方からのご意見】

・近年は、地震だけでなく様々な災害が起きている。すべてに対応することは難しいが、有事に備えて訓練を行い、防災意識を高めてほしい。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S	S

6-2-1	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S	S
6-2-2	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S	S
6-2-3	定期的に防災訓練を実施しているか。	C	C

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果: 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

アドミッション・ポリシーや学費、募集定員などを募集要項やホームページにて公表し、学校としての学生受け入れの方針を明らかにし、高等学校訪問やオープンキャンパスなどの説明会において、参加者にパンフレット等を配布し就職実績や公務員試験に関する情報を提供している。また、入学者選抜は、公表している選抜方法に則り、公平かつ適切に実施している。入学者の選抜方法や選抜基準を設け、この基準に沿って複数の教職員で選抜を行っている。昨年まで課題となっていた、非常勤講師への周知、共有は書面によるホームページの案内等を通して行った。感染症拡大の懸念から、オンラインと来校による実施体制を整えており、運用に関するノウハウをMicrosoft Teamで共有することで、公正かつ適切に入学試験を実施できている。

【課題及びその改善方策】

特になし。より認知されやすい周知、公表のあり方を検討し実行していく。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S	S
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	S	S

基準 8 財務

学校関係者評価結果: 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。また、事業計画に基づき適切に予算を編成・執行している。さらに、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S	S

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果: 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

専修学校設置基準・福岡県私立専修学校設置認可取扱基準等の関係法令やそれらに沿って規定された学則を遵守して適正に学校運営を行っている。また、学則等は法令改正等に応じた見直しを適切に行っている。個人情報保護・ハラスメント防止啓発・危機管理に関する規程を定め、適切に運用している。特に個人情報が含まれる書類は鍵付き場所に保管するなど個人情報保護を徹底しており、教務会議を通じて、法令順守に関する教育が行われている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S	S
9-1-3	法令遵守違反等に対応する体制を整備しているか。また、法令遵守等に関する研修・教育を行っているか。	S	S

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

毎年度、自己点検・評価及び学校関係者評価を実施し、その結果に基づいて継続的に業務等を改善することで学校教育と学校運営の質を向上させている。また、多くの教職員が自己点検・評価への理解を深められるよう、年度ごとに委員を交代しており、報告書作成にあたっては、教職員間の連携が取られている。自己点検・評価の結果は、前年度、前々年度の報告書との対応表を用いて学校関係者評価委員会で報告されている。また、そこで出された改善案などの意見をもとに学校関係者評価報告書を作成し、自己点検・評価報告書とともにホームページで公開している。また、ホームページに情報公開されていることを告知し、全教職員が容易にアクセスできる環境を整えている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	S	S
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	S	S
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S	S

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

学校の教育資源を活用した地域貢献活動として、高等学校への出張講座、面接対策などを通して、高等学校等が行うキャリア教育に対する支援を行っている。公務員として活躍できる人材を輩出することを目的とし、学生には積極的にボランティア活動に参加することを促している。学生への告知を徹底し、活動後には報告書の提出を義務付けている。北九州青少年ボランティアステーション・北九州市社会福祉協議会・福岡県警察・地元町内会など多くの関係機関と連携して、学生がボランティア活動を行えるよう支援している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S	S

基準12 国際交流

学校関係者評価結果: 適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

公務員試験の性質上、留学生の受け入れを行っていない。コロナ禍での中断を経て、渡航留学プログラムは完全に再開している。ただし、渡航に不安のある学生向けにオンライン留学という選択肢は残している。麻生専門学校グループ内の留学担当部門が留学プログラムの学内説明会を行い、別途個別相談の場も設けている。申し込み者に対しては、オリエンテーションや英語勉強会を実施しており、また学生・保護者等向けの説明会では、渡航先情報や必要な準備、現地での心構え、たびレジ等の情報共有を行っている。学生とはチャット等の連絡ツールで常時連絡が取れるようにしており、質問や相談の受付、情報共有等を行っている。外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
12-1-1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	評価除外	評価除外
12-1-2	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	評価除外	評価除外
12-1-3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S	S

以上